

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	ICT 機器やソフトの効果的な活用法を探究しながら、生徒一人一人の意欲を喚起し、分かりやすいと感じ取れる、工夫された授業作りを目指す。	中間評価	ICT 機器の効果的な活用法を各教科で工夫している。様々な課題を共有し、改善につなげている。	最終評価	
環境作り		授業規律の徹底、教材の内容や提示方法の工夫、ペア学習等学習形態の工夫をし、主体的に学びに向かいやすい環境作りの充実を図る。		生徒の実態に応じた、指導方法や学習形態等の改善を継続して行っていく。		

■ 教科の取組内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
国語	調第2年生及び3年生について、令和2年度に実施した新宿区学力定着度調査において、教科全体の平均正答率が全国平均・新宿区平均を上回った。 また、観点別においても、3年生では全領域、2年生では1つの領域を除く他4領域において、平均正答率が全国平均・新宿区平均を上回る結果となった。 特に、3年生の「読む能力」は新宿区平均を4.1%、全国平均を7.0%上回っている。2年生についても、「書く能力」が新宿区平均を0.7%、全国平均を4.2%上回っている。	・左記に示したとおり、ほとんどの観点において全国平均・新宿区平均正答率を上回っているが、「言語についての知識・理解・技能」について、2年生では平均正答率が新宿区平均を上回っているものの、全国平均を1.1%下回った。「知識・理解・技能」については、上述の結果を踏まえ、漢字の学習や古文の学習、基本的な文法について、重点的な課題として捉え、基礎基本の定着を図る必要がある。	・授業などを通じて、知識を活用できる場の設定を行う。例えば、小テストを行うことに加え、古文については、歴史的仮名遣いで書かれる古文への抵抗感が大きいことも考えられることから、ICT 機器を活用し、資料の提示や繰り返し学習などを行う。加えて、漢字や文法の学習については、ワークやデジタルドリルなどの副教材を活用し、基本的な内容や復習を行い、多面的・多角的に授業内で進んで取り上げることを通して、学力の確実な定着を図る。	・年度当初に示した「言語についての知識・理解・技能」の定着について、ワークやデジタルドリルなどの副教材を活用するとともに、小テストの実施を行った。	
社会	調2年生については、社会的事象への関心・意欲・態度が全国平均も下回っており、結果的にそれが、思考・判断・表現、資料活用の技能、知識・理解も区の平均を下回ることにつながっている。特に歴史を苦手としている。3年生は社会的事象への関心・意欲・態度、思考・判断・表現が全国平均を上回っているものの、資料活用の技能、知識・理解が区の平均を下回っており、特に歴史の資料活用の技能を苦手としている。	・2年生については主体的に学習に向かう態度を向上させる必要があり、それをその他の観点へ向上につなげたい。 ・2、3年生ともに知識・技能の観点の強化が必要である。特に歴史の授業で知識・技能の観点を強化する必要がある。	・2年生については授業の振り返りや単元ごとのまとめを通して、社会的事象に対して、主体的に考える機会を増やす。ICT 機器を活用し主体的に学習に向かう態度を育てていく。 ・2、3年生ともに ICT 機器を活用した資料の読み取りを実践していく。また、知識の定着を図るために小テストなどを行う。歴史の授業では単純に教師が説明するだけでなく、資料から考える場面を適切に設ける。	・タブレット端末を通して、単元のまとめの活動を作成させる活動を行っている。 ・考える場面を増やすために、小テストを行う形式ではなく、資料の読み取りを行っている。	
数学	調各学年ともに、新宿区学力定着度調査では全国平均を上回った。また、3年生は区の平均も大きく上回った。 ・3年生は領域別正答率、観点別正答率ともに平均正答率を大きく上回っている。特に、「見方・考え方」の観点の正答率が、全国平均を最も上回った。 ・2年生も領域別正答率、観点別正答率ともに平均正答率を上回っているが、区の平均正答率については下回っている。特に、「見方・考え方」の観点の正答率が、区の平均正答率を最も下回った。	・基礎的な学力が身に付いた生徒には、応用問題に取り組ませるなど、さらに意欲をもたせる必要がある。 ・授業に集中できない、提出物を期限内に出せないなどの生徒には、個別に声かけなどを行い、個々の習熟度に合わせた課題を行わせて達成感を感じられるようにする。また、ICT 機器を活用して意欲的に学習に取り組めるような工夫を行う。	・新宿区学力定着度調査の結果を活用して、自信をもたせながら、個に応じた指導を充実させる。特に、教材に工夫をし、数学を日常の生活の場面に使う題材などを用意し、既習事項を活用させる力を身に付けさせる。また、ICT 機器を活用することによって、主体的に学習に向かう態度を育てていく。 ・授業態度や小テストの受け方などの課題について、習熟度別少人数授業の利点を活かして、教員間の情報交換を密にし、個々の生徒に応じた教材の作成を行うなど、学習意欲を向上させる。	・タブレット端末を活用した課題演習や家庭学習に取り組ませることで、主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせることができるようになっている。 ・各学年で毎時間授業の冒頭で、確認テストを行うことで、前時までの授業内容の定着を徹底するようにしている。	
理科	調2・3年生ともに得点に二極化の傾向が見られる。 学3年生では、2年生と比較して自ら考えて、解決に向かおうとする姿勢が低い。 調3年生では、学力調査では思考・表現の観点が全国及び区内平均と比較して下回っている。	・2年生については主体的に学習に向かう姿勢があり、活発に意見を出すことができているが、3学年はそれを苦手とする生徒が多いため、意見を出す方法を工夫しながら、機会を増やしていきたい。 ・2、3年生ともに思考・表現などの観点が低く、知識を活用する場面をつくっていくことが必要である。	・2年生については授業の振り返りや単元ごとのまとめを通して、主体的に考える機会を増やす。ICT 機器の活用などを通して主体的に学習に向かう態度を育てていく。 ・2、3年生ともに、知識の定着を図るためにデジタルドリルなどを活用しながら指導していく。苦手と感じている生徒のために学習方法などを手厚く指導し、問題を解決する力を育てていく。	・個人のタブレット端末を活用させる場面を多くつくることはできなかったが、実験や実習を通して主体的に考える機会をつくることができた。 ・今期の前半はデジタルドリルなどを活用することができた、後半も活用を考えている。理解が十分ではない生徒へのサポートを考えると紙での演習も重要だと感じた。	

英語	調	各学年ともに、1月に行われた新宿区学力定着度調査では、全国平均・区平均を上回った。第2学年では、観点別の「知識・理解」と「表現の能力」の数値が低い。基礎・基本の定着が不十分であるため、知識を応用した表現活動につながらないことが理由と考えられる。第1学年では、「知識・理解」の数値が最も低かった。また観点別の「表現の能力」と領域別の「書くこと」の正答率が最も高かった。基礎・基本の反復や伝え合う表現活動を日頃の授業に取り入れたためと考えられる。	・まとまった文章を読んで要旨を把握する技能を身に付ける必要がある。 ・基礎・基本の定着が不十分な生徒には、反復練習によって知識を積み上げる必要がある。	・書くこと、話す「表現」への苦手意識を減らしていくために、毎時間授業でペアやグループでの表現活動を取り入れる。 ・基礎・基本となる語彙力を伸ばすために反復練習や小テストを十分に取り入れていく。 ・読む力を伸ばすために、さまざまな英語表現を与え、教科書以外にも様々な英文を読みとる機会を十分に与えていく。 ・基礎・基本の定着を図るために、副教材やデジタルドリルを毎回の授業で課題として出し、家庭学習に取り組ませる。 ・毎時課題を出し家庭学習の定着度を上げる。	・第1学年では「知識・理解」の定着のために語彙力の向上とまとまりのある文に慣れることを目的としてデジタルドリルや単元テスト等の副教材を活用した。 ・第2学年では「表現」する力の向上のために、帯活動として場面に応じた会話活動を毎時取り入れ、ICT機器を活用したプレゼンテーションの機会を単元ごとに設けた。
	学	基礎・基本の定着が不十分なため、自分の表現したいことを表現できないで、記述問題に苦手意識をもって生徒がいる。			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況